■令和４年11月１日　定例記者会見内容

１　日　時　　令和４年11月１日（火）11：00～11:30

２　場　所　　市役所本庁舎３階第３委員会室

３　出席者　　〇市長、総務部長、企画部長、地域創生部長、市長公室長、
企画調整課長、商工港湾課長、交流観光課長
〇酒田記者クラブ７社（朝日新聞、毎日新聞、読売新聞、山形新聞、
荘内日報、ＮＨＫ、ＴＵＹ）
〇共同通信社（記者クラブの承認により出席）

■市長発表事項

1　令和４年度酒田市新田産業奨励賞の受賞者について

市長／それでは、令和４年度の酒田市新田産業奨励賞授賞式と、同時に開催されます記念講演会のことについて発表させていただきます。

明日、酒田市の顕彰式ということで、こちらの方も是非皆様からご取材をいただきたいなと思いますが、もう一つ、11月恒例の表彰といいますと、新田産業奨励賞がございます。

令和４年度の新田産業奨励賞の対象企業ですけれども、２社の方々を表彰することになりました。

まず、１社は、株式会社金龍様でございます。

この地域の清酒製造業の 9 社の出資により設立をされました酒類製造企業でございます。高い品質水準で、定番商品を大切に守りつつ、地元の特産品を使用した新商品の開発、ウイスキーなどにも手がけているわけですけれども、或いは新分野への挑戦など、様々本市産業の振興に貢献をしているということでの受賞でございます。

２社目は、株式会社共栄開発工業様でございます。

技術向上によりまして、建設機械アタッチメントの修理業から製造業に転換をした企業でございます。製品を通じて、本地域の社会基盤づくりにも大きく貢献し、また将来を見据えた人材の登用、育成など、他の模範となる取組みを行われているということでの受賞でございます。

なお、授賞式でございますが、11 月 22 日、午前 11 時から市内のガーデンパレスみずほで行うことにしておりまして、あわせて、これも恒例でございますが、記念講演会として、同日の午後に公益文科大学内の公益ホールにおきまして、寺島実郎氏の講演、そして寺島実郎氏と佐高信氏の対談を実施する予定でございます。

恒例となりましたけれども、時代の環境を先取りした今後の酒田地域の振興のあり方について様々な提言が得られるのではないかなと、このように期待しているところでございます。

新田産業奨励賞の関係については以上でございます。

■代表質問

1　北前船寄港地フォーラム in パリへの参加について

記者／先月中旬以降、下旬まで、市長はじめ市関係者の皆さんがフランスに渡り、観光セミナー、寄港地フォーラム、首長交流会等へ出席されたわけですけれど、参加されて期待される今後の効果、都市間交流なども含めてお聞かせ願いたいと思います。

また、帰国しての所感を教えていただければと思います。

市長／報道各社の皆様におかれましては、今回の「北前船寄港地フォーラム in パリ」の状況について、手厚く報道していただきましたことを、この場を借りて厚く御礼申し上げたいと思います。

全国から参加された自治体、或いは企業の方が多かったのですが、山形県ほど手厚く報道をしてくれたところはなかったと聞いております。

秋田県は、秋田県知事が出向いたということもあって、報道に力を入れておりましたけれども、とりわけ山形県の報道の内容につきましては、北前船交流拡大機構の幹部の皆さんも大変喜んでおられまして、本当に感謝申し上げたいと思います。

今回のフォーラムの所感ですが、まずは大変疲れました。行く時は、アラスカを経由し、グリーンランドを回ってイギリスの上空を通ってフランスに入って 15 時間。帰りはインドの方を回ってきましたから、基本的には地球を一周してきたような行程で、大変ハードな行程のフランス訪問だったなと、このように思います。

お手元に、写真で綴る「第 31 回北前船寄港地フォーラム in フランス」の資料を別添準備させていただきました。

視覚的にはこちらの資料をご覧いただければなと思いますけれども、ちょうど真ん中にございますＪＮＴＯ（日本政府観光局）主催の観光セミナーが、プティ・パレというところで行われました。

このプティ・パレというのは、1900 年にパリ万博が開かれた時に建てられた建物で、現在は市立のプティ・パレ美術館として多くの観光客が訪れる名所の一つでございます。そこで、フランスの観光関係者約 60 人が参加をいたしまして、セミナーを行いました。

それぞれ参加自治体がまちの紹介をするわけなのですが、酒田は私が登壇をしまして、同行した加藤木工さんの酒田船箪笥と、酒田舞娘を紹介させていただきました。

紹介の後、セミナーという形で引き続きプティ・パレの中庭で意見交換会が行われまして、酒田のブースを設けて、船箪笥の展示ですとか、酒田舞娘が観光パンフレットやノベルティーグッズを配布するなどして、アピールをさせていただいたところでございます。

ここでは、船箪笥の使用目的ですとか、使用している木材、それから密閉の原理等の質問が寄せられたほか、酒田舞娘との記念写真を撮る方が非常に多く集まりまして、本市の北前船の歴史ですとか文化を、しっかりとアピールすることができたと、このように考えております。

このブースに参加されました 40 数名の方々、その中にはＳＮＳ等を通じて、映像配信を行っている業者も何人かおりましたので、今後、フランス人観光客のインバウンド

が増えることを期待したいなと思っております。

加藤木工さんには、私どもと酒田船箪笥のアピールということで同行していただきましたけれども、帰ってきてからいろいろ聞きますと、今回のイベントを通じて、販売促進に繋がったようであるという感想を伺ったところであります。

実は、11 月に山形県主催の「県産工芸品・デザイン雑貨パリテストマーケティング」というイベントがあるのですが、これにも参加をして、パリの店舗に 1 ヶ月間常設展示をする予定でございます。その前段ということもあって、10 月 18 日に加藤木工さんと、うちの佐々木地域創生部長が、店舗の運営者ですとか、フランス人が経営する雑貨店、こういったところを訪問して、日本の工芸品、特にこの酒田の船箪笥がパリで受け入れられるようにＰＲをさせていただいて、これは売れそうだなと実感を得て帰ってきたという報告を受けたところでございます。

現在、加藤木工さんでは、そのうちの一社というか、一つの企業と、加工面での連携取引の話が進んでいると伺っております。

そういう意味では、今まで、ちょっとこのまま廃れてしまうのかなと思った酒田船箪笥ですけれども、再生の息吹を感じられた今回のフランス訪問になったのではないかなと思っております。

それから、10 月 19 日と 20 日に行われましたアルザス地方の視察でございますが、アルザス地方はワインでも有名です。ドイツの国境に近いところでございまして、フランス語読みで言うとストラスブール、ドイツ語だとストラスベルクとなるのでしょうか。両方とも通じるような形もあって、ドイツとフランスとの間で帰属がいろいろあった地域ですが、特にアルザスワイン等で有名であります。

その自治体のストラスブール市やコルマール市というところに行って交流をさせていただきましたけれども、その土地の食文化に触れることを目的としたツーリズム、それが、ガストロノミーツーリズムという言葉で表現されるようですが、その地域のエリア全体を通したガストロノミーツーリズムの推進について、大変勉強になったというふうに思います。

鶴岡市の副市長さんが参加されたのですが、やはり酒田、鶴岡を含めた庄内地域として、このガストロミーツーリズムというものを、もっと広域的に進めるという、そういう必要性を実は感じて帰ってまいりました。

日本では単においしいものと観光を結び付けているだけですけれども、アルザス地方では、生産されるものの歴史を深く掘り下げて、先ほども言いましたけれども、ワインで有名な土地なものですから、何故ぶどうがおいしいのかとか、ワインがおいしいのかとか、どういうところに注意をして生産されているのか、ワインの醸造所の事業主の様々な考え方だとか、そういったものを身近に聞くことができました

特にこのアルザス地方の取組みで、これいいなと思ったのは、「アルザス観光パスポート」でした。これは日本語で書いてあるのですが、「パスポート　アルザ　シアン」というふうになっていますけれども、「アルザス観光パスポート」というものを作って、地域を挙げて、こういうものを訪れた方に配っているのです。

アルザスには日本学研究所があるものですから、日本語でこういったものを作成して観光客に配ると。パスポートサイズなので、非常に手軽でコンパクトにまとめられて、これはいいなと思いました。

早速、鶴岡市の副市長とも相談をして、こういうものを是非庄内で作りたいよねっていう話をさせていただきました。そういった面では大いなる気付きがありました。

実は、こんなコンパクトなものではなく、庄内全体の観光資源、文化、歴史をまとめた冊子は、かつて庄内開発協議会という組織で作ったのですが少し大きいのです。片手で持って見るという、そういう代物ではなかったので、やはり、このサイズ感というか、コンパクトな感じでもって、しかもパスポートという形式をとっているので、一枚目をめくると身分証明のような写真を貼る欄があり、これは面白いなと思って見てまいりました。

ストラスブール市は鹿児島市と協定を結んで交流しています。それから、コルマール市というのはアルザス地方の南側の中心都市なのですが、そこは高山市と姉妹都市を結んでいます。そのため、自治体間交流での広がりというのは現実的ではないかな、という印象を持って帰ってまいりました。

すでに先導的に日本の都市と交流している実績がありますので、そこに我々がはまり込むというのは、少し難しいかなという感じではありましたけれども、特に観光交流という面では大変勉強になった訪問になったところでございます。

アルザス地方、ストラスブール市ですとか、その地域での交流の様子は、添付資料右下の方に写真でまとめさせていただきました。

やはり、一番交流しやすい環境にあるなというのは、アルザス欧州日本学研究所というのがあるものですから、日本語を話す方が結構いるというのが大変魅力を感じました。

そういう面では、今後、交流の道というのも開ける可能性はあるのかな、という印象でしたけれども、姉妹都市交流というところまでは、なかなかそう簡単には繋がらないかなという印象を持って帰ってきたところでございました。

あとは、北前船寄港地フォーラムそのものは、ルーブル美術館で休館日に貸切りという形で開催されました。その関係で、ルーブル美術館も人がいない中で少し見学をする機会もありましたけれども、ミロのヴィーナス、モナリザ、そういったいわゆる名作品を身近で鑑賞することができたということも、大変有意義なフランス訪問になったかなと、このように思います。

秋田県の方では、竿灯とか、それから、なまはげ、そして秋田犬等を投入して大々的にアピールをいたしました。それはそれなりに注目もありましたけれども、酒田市としては舞娘さんを 3 人連れて行きました。やはり華やかなものですから、そちらに対する皆さんの関心が非常に高かったかなということで、酒田は酒田として、酒田の伝統文化をしっかりアピールすることができたかなと、成功裏に終わった今回のフランス訪問だった、そのような評価をさせていただいたところでございます。

■フリー質問

・特になし

■その他

・観光地域づくり候補法人（候補ＤＭＯ）への登録について

地域創生部長／お手元の方に観光地域づくり候補法人（候補ＤＭＯ）の登録ということで、10 月 28 日に登録が完了したということでございます。

観光地域づくり法人ＤＭＯという組織でございますけれども、私ども中町庁舎の 6 階に、一般財団法人酒田ＤＭＯとして今年度立ち上がっております。

こちらの団体が、観光庁の方に、まずはＤＭＯになる第一歩として、候補ＤＭＯ、その後、実績を積みながら地域の観光事業者と連携して、観光誘客或いは戦略を立てて、地域の観光事業を実践していく。その結果、様々なチェックを入れて、修正をしながら進めていこうというような流れになっておりますけれども、候補ＤＭＯの次は登録ＤＭＯということになります。

庄内で言いますと、鶴岡市のＤＥＧＡＭ（デガム）というところが、登録ＤＭＯになってございますけれども、そこに並ぶような形で酒田ＤＭＯも登録ＤＭＯになっていきたいというところでございます。

現在の予定といたしましては、1 年以上の実践の経過が必要となりますので、早くて来年 12 月の申請というところで進んでいきたいというふうに思っているところでございます。

候補ＤＭＯになったということは、まずは登録ＤＭＯに向かって受験資格を得たというようなイメージでございます。その受験資格がないと、最終的な登録ＤＭＯにはなれないということでございますので、その準備が整ったといことになります。

今年の 4 月から立ち上げておりますけれども、荒井という理事長でございますけれども、昨年 1 年度、酒田に居りまして、しっかりと地域の皆さん、観光事業者様と連携をしながら、すでに誘客事業なども行っておりますし、観光庁の様々な事業などにも取り組んできました。そういった実践があったからこそ、この短期間で候補ＤＭＯになれたのかなというふうに思っているところでございます。

今後、地域の観光事業者、交通事業者、宿泊事業者、或いは酒田で少し足りないと言われる宿泊機能、こういったところをどのようにして酒田で充足していくかと、例えば民泊を促すだとか、民泊施設を市民の皆さんと一緒に手がけていくだとか、そういったことを図りながら、酒田の観光事業を推進していこうというような取組みを進めてまいりたいと思っております。

まずは、候補ＤＭＯになったということでの皆様へのご案内でございます。よろしくお願いいたします。